

口腔内の感覚刺激に対する顔の皮膚循環応答

鍛島, 秀明

<https://doi.org/10.15017/1455996>

出版情報：九州大学, 2014, 博士（人間環境学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

論文審査等の結果の要旨及びその担当者

<p>(ふりがな) 氏名</p>	<p>かしまひであき 鍛島秀明</p>
<p>論文審査の結果の要旨</p>	<p>別紙のとおり</p>
<p>論文調査委員</p>	<p>主査 九州大学 教授 熊谷秋三 副査 九州大学 教授 大柿哲朗 副査 九州大学 准教授 橋本和秀 副査 東京工業大学 教授 林直亨</p>
<p>試験又は学力確認の結果の要旨</p>	<p>九州大学大学院人間環境学府の最終試験に合格した。</p>
<p>論文審査学府教授会等の名称と組織</p>	<p>名称 九州大学大学院人間環境学府教授会 組織 構成員 77人</p>
<p>判定方法</p>	<p>人間環境学府教授会における無記名投票による。 出席者 58名 可票 58票 否票 0票</p>

論文審査の結果の要旨

本論文は、口腔内への感覚刺激に伴って顔の皮膚血流がどのように変化するのか、そして、「おいしい・まずい」といった情動を反映するのかを明らかにしたものである。研究1：基本味覚刺激に対する顔の皮膚血流応答，研究2：温度と痛み刺激に対する顔の皮膚血流応答，研究3：複合味の刺激に対する顔の皮膚血流応答，および，研究4：異なる交感神経刺激に対する顔の皮膚血流応答の部位差を検討した。研究1では，甘味，うま味の刺激では，快と感じるほど頬の皮膚血流が増加し，苦味の刺激では，不快と感じるほど鼻の皮膚血流が低下するといった，情動に応じた特異的な血流変化が観察された。研究2では，温度や痛み（辛味）の刺激でも，顔の皮膚血流の特異的な変化が観察され，顔の皮膚血流を用いて味覚を評価する際には，味覚以外の感覚入力を制御する必要性が示された。研究3では，複合味の刺激であっても，顔の皮膚血流応答から「おいしい・まずい」を評価できる可能性が示された。研究4では，口腔内の感覚刺激が顔の皮膚血流応答に部位差をもたらした要因として，交感神経の入力に対する血管応答の違いであることが示された。よって，本論文は博士（人間環境学）の学位に値するものと認める。